

キングス・カレッジ・ロンドン 留学報告書

第4号 2017年11月

2017-2018 年度グローバル補助金奨学生 中谷菜美



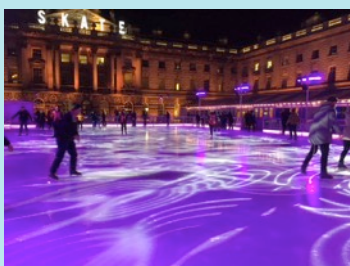
- 留学先
キングス・カレッジ・ロンドン
International Child Studies 修士課程
- スポンサークラブ
東京六本木ロータリークラブ
- ホストクラブ
エッジウェア・スタンモア
(Edgware and Stanmore) ロータリークラブ

目次

- 01. 履修内容・学校生活
- 02. ロータリークラブの方々と日々
- 03. 重点分野との関わり



ロンドン金融街の名誉職である「ロード・メイヤー」の就任を祝う恒例イベント



学校の隣にスケートリンクが現れました！鮮やかなライトアップでとても綺麗です。

皆さま、こんにちは。あっという間に時は経ち、一学期が遂に終わろうとしています。今期最後のエッセイも無事に終了し、ようやく一息つくことができました。ロンドンは最近初雪が降るなど寒さが厳しくなってきました。ロンドンに来て早くも3度目の風邪を引いていますが、冬休みに少しゆっくりし、また新学期頑張りたいと思います。それでは、11月の活動報告をお届けします。

01. 履修内容・学校生活

子どもの健康と発達

11月後半からは、子どもの権利の授業が終了し、新たに子どもの健康と発達という授業が始まりました。今日までに、新生児医療、早産が子どもに及ぼすリスク、栄養、発達心理学などについて学びました。

授業の一環として、二つの施設を訪問しました。

【①新生児ケアユニット】

未熟児や医療が必要な新生児を治療する病棟を訪問しました。医療の発達で、今まで以上に未熟児で産まれた赤ちゃんの命を救えるようになった反面、未熟児として生まれたことが原因で障がいを抱えて生きていく子どもが増えている現実があり、ジレンマを抱えているという話が非常に印象的でした。



【②子ども健康センター】

ロンドンのレンバス地区(大学がある地域)に住む 6,000 人の子どもを管轄し、子どもの発達と健康のためのサービスを提供する施設を訪問しました。この施設は、福祉行政とも連携し、虐待児の発見から保護につなぐプロセスも担っているとのことでした。国の医療体制の中で、子どもの虐待からの保護や、個々の多様な発達ニーズに併せたサポートを展開している点が、子どもにとって非常に手厚い体制だと感じました。

※イギリスでは、国営の医療サービスが全国民(外国人のイギリス滞在者も対象)に対して実施されており、同センターも国営。

サンクス・ギビングのクラスランチ

アメリカ人留学生の提案で、サンクスギビング(11月23日)当日に、各自が一品持ち寄るポットラックランチを開催しました。七面鳥やアップルパイ、中華料理などたくさんの料理が集まり、授業の合間でしたが交流を楽しみました。



02. ロータリークラブの方々との日々

ロータリアンレディース・ディナーに参加



11月8日(水)には、定例のレディースディナーに招待していただきました。この日のメニューはトルコ料理で、美味しく楽しい時間を過ごしました。ご一緒したロータリアンの方々がポピーのバッジを付けていたので、その由来を教えてくださいました。イギリスでは、11月11日は戦没者を偲ぶ慰霊の日にあたり、その日が近づくとポピーを身につけるとのことです。



11月18日(土)には、カウンセラーのフランさんのご自宅での夕食にご招待いただきました。古いご友人という4人のゲストの皆さんとも色々なお話ができました。ここでも驚いたのは、その国際色の豊かさでした。イスラエル出身の大学教授、マレーシア出身の看護師さんなど、多様なバックグラウンドの方が社会に溶け込んでいるのがとても新鮮でした。また、自身も若い時にイギリスに渡って苦労された経験から、ネイティブの会話に入るコツを教えてくださいました。子どもの保護に関わる行政書士さんもうらっしゃり、勉強の面でもとても勉強になるひと時でした。



カウンセラーのフランさん(中央)宅での夕食

03. 重点分野との関わり

英国開発学勉強会・日本を外から学ぶ学習会

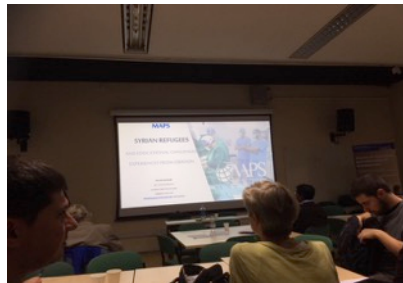
イギリスには、国際機関等を目指す学生が多くいるので、英国開発学勉強会という自主組織が2000年から発足しています。開発や人道支援に関連するテーマが扱われ、共通の関心を持った学生が集まるので積極的に参加しています。また、イギリスで学ぶ日本人学生が、海外からの視点で日本を考えるというテーマのもとに開催されている日本を外から学ぶ学習会にも参加しています。

11月18日(土)に開催された日本を外から学ぶ学習会では、平和学について学びました。紛争を解決するためには、紛争の主体、それぞれの主体の目的を分析し、それぞれのアクターが納得できる妥協点を見出すことが重要であること、また全ての紛争は人間が引き起こすものであり、クリエイティブな視点で解決策を見出せる可能性があることなどが、主な論点として語られました。

難民関係のセミナーへ参加

引き続き、難民の子どもに関わるセミナーにも積極的に参加しています。特に今月はとても興味深いセミナーに多く参加でき、論文テーマ決定の参考になりました。

- ①紛争下の子どもたち：子どもの保護への革新的なアプローチ
- ②シリア難民と教育における課題：レバノンの経験から
- ③難民と強制移民
- ④人道危機における教育



特に興味深かったのは、他大学で行われた、②の「シリア難民と教育における課題：レバノンの経験から」と、④の「人道危機における教育」というセミナーでした。

②は、レバノンで避難生活を送るシリア難民の子ども達に対して、基礎教育に加えて創造性やイノベーションに特化した教育を提供するNGOの代表の講演でした。普通、難民への教育というと最低限の教育というイメージですが、ご自身もシリア人である代表は、紛争が終わった後にシリアの復興を支える優秀な人材を育成しておくことが非常に重要と捉えており、こういったアプローチをとっているとのことでした。また、シリア人難民は避難先のレバノンでもレバノンを支える貴重な人材になれるという主張からも、新しい視点を得ることができました。

④は、シリアのユニセフで勤務経験のあるPhDの学生による発表で、シリア国内の教育課題が共有されました。シリアでは現在、政府、非政府組織が各地域を掌握している状況で、掌握しているグループによって教育カリキュラムが異なり、政府の管轄地域の学校でしか教育を修了したと認められないこと。そのため子どもたちが修了証明を得るために必要な、政府の管轄地域で実施される試験を命がけで受験しに行っていること。国外に逃れたシリア難民の教育については、日本でも語られることがありますが、シリア国内の教育の現状については初めて聞き、非常に勉強になりました。

新学期は、1月中旬に論文のプロポーザル提出があったりと忙しくなりそうですが、少し余裕を持って取り組むことが目標です。また1月には、遂にホストクラブで卓話を行う予定です。

2017年は大変お世話になり、ありがとうございました。みなさま、よいお年をお迎えください。